

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅱ-1-6 消費者対策の推進
---------	------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	中小企業課長 野坂 一弥	電話番号	0852-22-5881
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	貸金業法に関する事務		
目的	(1) 対象	貸金業者の顧客（資金需要者）	
	(2) 意図	貸金業法で保障されている権利や利益を確保する。	
事業概要	・貸金業を営む者の業務の適正な運営を確保し、資金需要者等の利益の保護を図る。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	苦情相談等問題解決率	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		90.00	90.00	90.00	90.00	
式・定義	苦情解決件数／総苦情件数（解決・対応が可能なものに限る）×100		実績値	100.00	100.00	100.00	100.00		%
			達成率		111.10	111.10	111.20		%
指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位		
								目標値	0.00
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00		%	
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	2,036	2,057
うち一般財源 (千円)	1,736	1,757

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	①順調に進んでおり課題がないため検討していない
---------------------	-------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ・苦情相談等は年数件程度（H26年度は3件）ある。
- ・3年に1回の立入検査の実施や運営指導を行い、苦情の解決に努める。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・貸金業の適正な運営の指導や貸金業法について制度趣旨の周知を図った。
- ・苦情相談件数はH26年度で3件あったが、未解決なものはなく、違法な業態の貸金業者は県内に確認されおらず、貸金業者から適切な報告がある。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- ・苦情や相談等があった場合、日本貸金業協会や財務局などと適切に連携・対応しており、問題は無い。

②困っている状況が発生している「原因」

③原因を解消するための「課題」

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・引き続き、貸金業界の適正な業務実施と貸金業法について、周知することが必要。
- ・また、悪質なヤミ金融や新たな業態の金融詐欺についても、引き続き日本貸金行協会や財務局等からの情報を基に、動向を注視していく。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）